

アジア生産性機構 60 周年記念事業  
宇都隆史 外務副大臣 開会挨拶

Dr. モクタン・アジア生産性機構事務局長、  
茂木 日本生産性本部会長、  
APO メンバー理事・生産性本部関係者各位、  
皆様、

日本国外務副大臣の宇都隆史です。本日は、アジア生産性機構、APO の 60 周年記念イベントで御挨拶させていただくことを嬉しく思います。APO の設立 60 周年を心からお祝い申し上げます。

過去 60 年の APO の歩みは、必ずしも平坦なものではありませんでした。戦争や紛争、経済危機、自然災害など、APO は激動の年月の中で、その任務を果たしてきました。また、環境・気候変動問題、高齢化社会など、60 年前には顕在化していなかった新たな課題にも APO は対応する必要がありました。

そのような中、APO は、時代の要請を踏まえ、各国・地域のニーズに応じ、生産性そして人々の生活の質の向上という切り口から解決策を提示し続けました。専門家派遣、各種研修など、人材育成の努力を続けてきました。また、Green Productivity、緑の生産性、という、持続可能性を踏まえた生産性向上の指針を国際社会に提示しました。更に、APO メンバーが生産性を向上させるための国内の制度設計・計画策定を支援してきました。

アジア・大洋州地域は、過去 60 年の間に急激な経済成長を遂げましたが、生産性運動が果たした役割を、我々は忘れるべきではありません。日本の「カイゼン」や「5S」といった手法は、日本生産性本部や多くの専門家・企業関係者によって広く APO メンバーに共有され、生産性向上運動の礎を築きました。更に、現在では、インドの IT、シンガポールのビジネス・エクセレンスなど、各メンバーの強みが好事例として共有されています。「相互協力」の精神の下での継続的な事業の実践と成果は賞賛に値します。

皆様、  
本日のこのイベントは、我々が直面する課題を認識し、将来社会の展望を共有し、課題解決に向けて生産性の取組を再強化する新しい 60 年の始まりを告げるものです。

新型コロナが人類を襲い、世界は一変しました。各国で外出制限措置などがとられ、需要が大幅に落ち込むとともに、サプライチェーンの寸断による供給制約が生じ、グローバルな人やモノの流れが急速に収縮しています。こうした中、デジタル化の促進、流通手法の改善、社員研修等の生産性向上に係る取組は、その重要性を一層増しています。

先月、菅義偉総理大臣は、アジアと世界の新たな成長の原動力の鍵は、グリーンとデジタルであると指摘しました。

環境や資源の持続可能性を確保することは、ビジネスチャンスとなり、成長のエンジンとなり得ます。また、今回のコロナの経験は、テレワーク、遠隔医療・教育など、これまでの我々の働き方やサービスの提供手段を見直す契機にもなりました。新型コロナという、国際的なパワーバランスを変えるゲームチェンジャーによって、グリーンエコノミーとデジタルエコノミーのフロンティアが大きく広がっています。

そのグリーンとデジタルの促進は、正に APO が高い専門性を有し、地域の生産性向上を主導してきた分野です。APO は、with コロナ、post コロナの時代において、より一層の活躍を果たす十分な土壌を有していると言えます。

皆様、

60 年後、我々の子孫たちは、どのような課題に直面しているのでしょうか。世界の人口は 100 億人を超え、多くの国で高齢化が進み、ひょっとしたら、残念なことに、新たな感染症やそれ以外の課題と格闘しているかもしれません。しかし、社会構造や課題が変容しても、インプットからアウトプットを最大化する生産性向上の重要性は、何ら失われることはありません。APO は、過去そうであったように、そして今日そうであるように、時代の要請に沿って、地域の経済社会開発に貴重なインプットを提供し続けるでしょう。

APO のこれまでの 60 年の業績に敬意を示すとともに、次の 60 年に向けた取組に期待して、私の開会の挨拶とさせていただきます。

御静聴有り難うございました。

(了)